

令和6年度 第77回卒業証書授与式

日本有数のほまれ高き北アルプスの威容も、春の暖かな日差しに光輝く季節を迎えました。

弥生三月最初のこの佳き日に、吉田同窓会副会長様、小林PTA会長様をはじめ御来賓の皆様、そして、多くの卒業生保護者の皆様のご臨席を賜り、第七十七回令和六年度長野県松本美須ヶ丘高等学校卒業証書授与式をかくも盛大に挙行できますこと、衷心より御礼申し上げます。

卒業生の皆さんが美須々の仲間になってくれた令和4年度はまだ、世界的なパンデミックの只中であり、中学校時代から様々な活動の制限を余儀なくされた中で、期待より不安の方がはるかに強かったのではないかと推察いたします。

その中で、2年生の5月にコロナ5類への移行にともない、学校の教育活動も徐々に可能な範囲が広がり、3年生では生徒会の牽引役として、またクラブ活動の中心として、そして自らの進路活動での着実な歩みを進めてくれました。

日々の学校生活や校外での生活の中で不安を払拭しながら、皆さんはどのように凛々しい姿に成長してくれました。皆さんの取組や努力に心より拍手を送りたいと思います。

また、卒業生の保護者の皆様、年毎に変化した様々な学校からのお願いに対し格別なるご理解をたまわり、ご対応をいただきましたこと、心より感謝と御礼を申し上げます。

また、ご子息ご息女の成長過程において、不安な時期もおありではなかったかと拝察申し上げますが、お子様の成長を温かく見守りいただきましたことに深甚なる敬意を表するものでございます。

さて、令和の時代、日々進化するテクノロジーにより、わたくしたちの生活への恩恵は計り知れぬほどであります。特に情報通信関係、SNSの発達により情報発信や情報共有、不特定多数の皆さんに対しての自己表現が叶う時代となっています。

しかし、同時に、対人的、直接的なコミュニケーションの力が社会の中での重要な力として、引き続き位置付けられていることも皆さんご承知のとおりです。

さらには、そのコミュニケーションの中で、多様な考え方や価値観があること、他者の意見を否定せずに受け止めつつ、自他の意見を融合させながら、よりよい納得解を導き出す協働的な姿勢こそが、これからの社会では益々重要になっていくものと思います。そのような力を、この美須々で身に付けてくれたものと、次代を担う皆さんを心強く思っているところです。

皆さんが高校時代を過ごしたこの松本は、3つのガクトを掲げていることは皆さんご存知のとおりです。

まず、学びの学都の象徴、旧開智学校の開校や旧松本高等学校の誘致の歴史をはじめとした学びの源流が脈々と受け継がれています。総合的な探究の時間では、松本市さんをはじめ、地域の皆様のお力添えを賜り探究活動を深めることができたことと思います。

また、山岳の岳都としては、上高地をはじめとした日本を代表する山岳地帯、北アルプスの玄関口として、地元の皆さんはもとより、幾多のアルピニスト、また観光に訪れる方たちを魅了してやみません。

そして、音楽の楽都松本といえば、やはり世界の小澤征爾さん、セイジ・オザワ松本フェスティバルのメッカ、キッセイ文化ホール（長野県松本文化会館）、この松本に世界に誇るべき音楽の祭典を招くことが出来たのは、小澤征爾さんの卓越した眼力（がんりき）、松本に関わっておられるあまたの皆様のお力、そして北アルプスの遠景に抱かれた自然風土という、他の地域では真似のできない要素がこの地に凝縮されていたのだと感じます。

生前、小澤さんは様々な名言を残しておられますが、「これまで生きて、悲しみを味わった経験。悲しみは人から教われないからね。自分でわかんないから、わからないわけだから」

また、「テレビで見たりインターネットで調べたりで世界を知った気持ちになってしまう。確かに私たちが若い頃よりもはるかに海の向こうの情報は入ります。でも、それは他の誰かの体験であって自分自身の経験ではありません」と述べておられます。

世界各地での様々な経験をされてきた実体験をもとに、リアルで立体的な経験こそが貴重な財産になるということを大切にされてきた小澤氏の教えが込められていると感じます。

そして次のこの言葉こそ、小澤氏の生き方、理念を最も象徴的に表れているといえる一言だと私は思います。「技術の上手下手ではない。その心が人をうつのだ。」

戦後八十年、私たちの生活は、人為的に創造された利便性が益々増していくことでしょう。しかしながら、私たち人間が自然界の中の一部であることは、昨今よく言われる、経験がないような豪雨や積雪、猛暑や突風、また直近の森林火災等からも、実感するところです。

その自然界の中の一存在であるわれわれ人間が、人間たるためには、そして成長していくためには、私たち自身の心を、どれだけ磨くことができるかにかかっていると言えるのではないのでしょうか。

他者に対して優しい気持ちで、また思いやりの気持ちを持って接していくということはもちろん大切でしょう。と同時に、時には毅然とした対応も含めて、他者とのよりよい関係を構築していくことが重要なのだとわたくしは思います。

他者に対する誠実な対応や真摯な姿勢が人の心に響き届く。小澤氏は、音楽を通じて、演奏者、聴衆の皆さん、次世代の若い演奏家、未来の子どもたち、音楽の演奏者でなくても関わってくれている全ての方々の心をおもひやる、その気持ちが、音楽の専門家はもとより、そうでない方々の心もうつのでしょう。自分のためだけということではなく、他者のために行動できる、そこが小澤征爾さんという方の魅力であり、この松本の誇りになっているのでしょう。

わたくしたちは予測の難しい時代を生きています。そのような時代だからこそ、ぜひ、新たな時代感覚、多様性を理解し受け止め合えるネイティブ世代、皆さんの優れた面を存分に活かしていただき、新たな時代の創造者たらんことを期待しています。

そしてそこには常に人と人とがつながりあい、自他ともに大切にする、心豊かで温かな人間関係を基盤にしたものであってほしいと願います。

今後の皆さんのかけがえのない人生が、心身ともに健康で、皆さん自身が納得できる確かな歩みとなりますように、そして、美須々で学んだ自由、平等、博愛の精神をこれからも大切に、自らのために、他者のために、社会のために、大いに活躍されんことを心より御祈念申し上げ、式辞といたします。

令和七年三月一日

長野県松本美須々ヶ丘高等学校長 久保村 智